

デジタル化推進特別委員会記録

令和4年6月24日

【開催日】 令和4年6月24日（金）

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後1時～午後2時38分

【出席委員】

委員長	伊場 勇	副委員長	恒松 恵子
委員	白井 健一郎	委員	藤岡 修美
委員	前田 浩司	委員	山田 伸幸

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】 なし

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

事務局長	河口 修司	事務局次長	島津 克則
庶務調査係長	田中 洋子		

【審査内容】

- 1 導入するタブレットについて
- 2 特別委員会からの提案書（報告書）について
- 3 ICT機器使用ルールについて
- 4 その他

午後1時 開会

伊場勇委員長 皆さん、こんにちは。6月議会、お疲れ様でした。それでは、ただいまよりデジタル化推進特別委員会を始めます。この度は、議員の方々にアンケートを取ったり、デモンストレーションを二度させていただいたので、それについてどうだったのかというところ、使ってみてどういったことが必要なのかということと、特別委員会から提案若しくは報告をするに当たって、どういったやり方が適当で、どういった内容を盛り込んでいくかというところを、皆さんで協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。それでは、まず初めに導入するタブレットについてということで、機種とサイズについて、iPad P

r o の 1 2 . 9 インチ、 i P a d P r o の 1 0 . 5 インチ、そしてアンドロイド 1 0 . 5 を実際に事務局に置いてちょっと触っていただいて、どれがいいかアンケートを取ったところ、 i P a d P r o の 1 2 . 9 インチが 1 7 名、 i P a d P r o の 1 0 . 5 インチが 1 名、アンドロイドの 1 0 . 5 インチが 3 名という結果になりました。皆さんは、アンケートに回答いただいたと思うんですけども、それぞれどういった印象を持たれて、実際運用するときはどういうことが考えられるかというところについて、まず協議したいと思いますので、御意見をお願いします。

山田伸幸委員 I 社の 1 2 . 9 インチはたしかに大きくて見やすいということもありますが、ただ、大きくて持ち運びにどうなのかな。議場に持ち込んだときに、それを立てて見たりするとき、テレビ映り等といった面で支障になりはしないかという心配をしています。一方、 1 0 . 5 インチは、適度な大きさかなというふうに思いました。それと、この中に入らなかったんですが、キーボードが取り外せるタイプのノートパソコンというのも最近ありまして、そういったものが選択肢に入っていなかったもので、ちょっと残念かなと思いました。性能的には、あと実際に議案書を開いてみないと分からんかなと思っています。それが一度読み込んだらスムーズに自由自在にできるのか、若しくは、クラウドに置かれたままこちら側から見るというふうな方向なのかというのは、ちょっとよく分かりませんが、その辺の技術的なところというのが、まだ解明されてないかなというふうに思っています。

藤岡修美委員 私は、 1 2 . 9 インチでいいかなという気しております。県内他市の市議会も、 1 2 . 9 インチが多いという記憶がありました。 1 0 . 4 インチなのは山口市だけかな。私は、 1 2 . 9 インチという意見です。

伊場勇委員長 1 2 . 9 インチがやっぱり見やすいということで、持ち運びについて重いというふうに感じたのかな、どうかなというところがあるんですけど。

恒松恵子副委員長 紙媒体を減らすという観点から、タブレットを導入するのであれば、かなり書類並みの重さがありましたので、拡大機能はあるので、慣れて使いこなせるようになれば、いつも議場に持ってくるものから、確かに見にくいかもしれませんが、私はできれば小さい10.5インチのほうが使いやすいかなと思いました。ただ、これはもう意見多数ですから、それはもう少数意見になりますから、もうそれはやむを得ないことだと私個人的にはそう思っております。

前田浩司委員 私は個人的に、12.9インチを一応希望しまして、特に持ち運びということ、特に気にすることまでもないかなというふうに思っております。大きいほうが、早く慣れやすいのかなと思ひ、12.9インチを希望いたしました。

伊場勇委員長 慣れやすいというか、画面が大きければ、まずスタートの字の大きさも大きいのかなと思ひて、後で話しますけど、そのペーパーレス会議システムにおいても、タッチするところが、やっぱり大きい画面のほうが見やすかったりするんですよね。そういう設定もあるかもしれませんが、そういったところを加味すると大きいほうがというふうに思うし、年配の議員の方のことを思うと大きいほうがいいのかなと思うし、例えば、12.9インチだったら一つの画面を二つに分けて表示するとき、大きいほうがいいのかなと思ひます。今どっちに決めるとかではなくて、こっちのほうがいいんじゃないですかというぐらいで、議論を進めたいと思うので、その点とか含めてどうかと思ひているんです。

山田伸幸委員 選択肢にはなかったんですが、これはI社のシステムとそれかアンドロイドということだったんですが、タッチパネル機能の付いたノートパソコンというのもあるんですよね。キーボードの取り外しもできて、それでしたらそんなに負担にならないし、それこそキーボードを外してくれば、非常に軽いシステムで動くんでそのほうがいいと思ひたん

だけど、選択肢にはありませんでした。Sという、とても使いやすいものです。

伊場勇委員長 他市の使っている状況をいろいろ聞くと、タブレットは支給されたけども、自分で外付けのキーボードを買ってメモで活用している人もいます。それは多分個人の使い方だと思うんですけど、そこまで、今回準備すべきかどうかというところも併せて。そして、S社のですかね。

山田伸幸委員 M社のSというやつですね。

伊場勇委員長 確かに12.9インチ、10.5インチのI社、アンドロイド系で、別のものについても資料を集めながら、また、考えていけたらいいかなと思います。今のところ、17人と意見の多い、大きいものを一応ベースとして、試算とかもいろいろしていかないといけない段階であると思います。もちろん意見があれば、その都度しっかり頂きたいなと思うんですけども、今からちょっといろいろ予算も見積りを取っていかなくちゃいけない段階だと思っています。具体的に、一応12.9インチで進めさせていただいて、例えば、それが10.5インチになるとどれぐらい安くなるかということも含めながら、ちょっと進めていけたらいいかなと思います。もちろん違う、M社のデータも少しは参考にしながらですね。そういった感じでいいですかね、取りあえずは。（「はい」と呼ぶ者あり）じゃあ、そういう感じで取りあえず行きましょう。

山田伸幸委員 単純に計算すると、I社の12.9インチというのは、大体20万円超えなんですよ。10.5インチでも大体12万円程度、最新のものと14万円やったかな。アンドロイドだったら、最低1万円から高くても2、3万円程度で買える。それから、先ほどから言ったM社のSという機種は、6万円から7万円程度ということで、非常にI社に遜色のないスピードで動くシステムになっています。ただ、Windows

でサイドブックとモアノートが動くかどうかというのは、まだ分かりませんが、もし可能であるならば、そういう選択肢もあっていいのかなと思ったりします。

伊場勇委員長 参考にして進めていきたいと思います。では、次に行きたいと思うんですけども、デモンストレーションの結果についてということで、ペーパーレス会議システムのサイドブックとモアノートを、基本的に全議員対象に体験していただいています。来られなかった方もいらっしゃるんですけども、どちらかは使っていらっしゃると思いますので、その様子を見ながら、どういうふうに感じて、どちらがより使いやすいかというところを、少し方向性として決めていきたいなと思っているんですけども、いかがでしたか。

藤岡修美委員 私は、サイドブックが非常に使い勝手がいいなと、練れているなという感じがしていいなと思いました。

山田伸幸委員 やはりサイドブックのほうに一日の長があるのは否めないんですね。先行して、全国各地の自治体及び議会が導入してきた、それだけの理由はある。しかも、書き込んでも、その上にシートを付けて、それに書き込むような形まで明らかにして、デモンストレーションを見てこれは便利だなと感じています。私の知り合いなんですけど、大変高齢の女性が使いこなしているのを見ると、サイドブックは使いやすいのかなと感じています。

伊場勇委員長 デジタル化推進特別委員以外の方も、それなりに使えていたのかなと思うんですけども、より使いやすいそうだったのが、サイドブックだったのかなと思うんですけども、見やすくなかったですか。本棚とかフォルダの場所とかですね、こなれてるということなんですかね。あと検索システムも、過去の資料とか、検索ワードを入れたら、ざっと出てくると。これは、審査のときとか、よそに出て使ったときとかも、とても

使いやすいのかなというふうに思うんですけども、その辺はどう思いますか。

前田浩司委員 今回、モアノートとサイドブックスの説明を受けまして、恐らく同じような機能を持っておられるのかなとは思うんですけども、やはり2回目に受けたサイドブックスのほうが、より使いやすかったというのが印象です。一回モアノートを受けているからであったのかもしれませんが、先ほど委員長がおっしゃられたように、やっぱり本棚というか、棚がしっかり検索しやすいようなつくりになっていたようなイメージなので、個人的にはサイドブックスのほうにご縁があればいいかなと思っております。

伊場勇委員長 あと、採決システムというのがあって、本市議会がどう取り組むかで、システムなんて使う使わないは、こっち次第なんですけども、それをもし使えたら分かりやすいかなと思うんですよ。下関市とか何かやっていますよね。例えば、本会議場の採決システムが分かりやすいというだけで、このシステムを使うかどうかというのもちょっと議論が必要なんですけど。

白井健一郎委員 私のレベルを言うと、サイドブックスとモアノートの区別もちょっとよく分かりません。ただ、私ここで研修やったときに、非常に基本的なこと、該当ページを出したりとか、それをめくるとか、そこにしおりを貼るとかいうぐらいは何とか付いていけましたけど、そのとき大体、議員のほとんどの方が、それができたという御認識でしょうか。

伊場勇委員長 そうですね、一応付いていけたんじゃないかなと。ここに資料があって見れると、ページ数が多いところは、飛んでページを見るときに、1枚ずつじゃなくて、違うタブを開いて、飛んだところにも、その下から画面を持っていくとか、そういうのは、みんな付いていけてたんじゃないのかなと思っています。これに慣れないと覚ええないと思うので、

そういうところは少し時間が掛かるのかなと、ちょっと見てて感じました。

白井健一郎委員 それでですね、多分、本当に基本的なところしか使わないと思うんですよ、議場でもですね。だから選ぶときに、基本的なところを重視するというか、非常に分かりやすいというのを重視して、先ほどタブレットの大きさの話も出ていましたけど、私は重くても大きいほうがやっぱり単純に見やすい。私は、遠くは見えないんですけどね、珍しく。若者って伊場委員長ぐらいしかいませんから、多くの方は大体新聞の活字とかちょっと年齢的にも見にくくなってくるんじゃないでしょうかね。そういう人も多いと思いますから、見やすくて、機能も結構単純な機能をやりやすくってというやり方がいいと思います。

伊場勇委員長 分かりやすい機能のほうが、使いやすいと思うので、初めて導入しようとしているわけですから、そこはすごい重要な大事な観点かなと私も感じました。

山田伸幸委員 実は、サイドブックスは美祢市議会がかなり早くから取り入れて、最初使ったとき印象が悪かったんですよ。ところが、3年ぐらいたつと、やっぱりサイドブックスのほうも進化をしていて、動きが早くなったんですよ。それで、いらいらしなくて済むというか、おそらくWi-Fiへの対応が良くなったかなと思っています。セルラーモデルは、場所によって入りにくいというのはすごくあるけれど、Wi-Fiは、Wi-Fiのセットがあればできるから、山陽小野田市の場合は、3階に飛んできていないので、設定が必要になりますけれど、自宅でもWi-Fiの環境を整えれば、もう本当にスムーズに迅速な検索も含めて、使っていけるんじゃないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 もちろん業者のいろんなシステムが、オプション機能として処理速度とかも追加され、多分いろいろ付いているし、サイドブックスは、

議会とか自治体に対してトップランナーですからね、より良くなるのは早いかなと思いますね。サイドブックスのほうが使いやすいのかなというふうに今聞いておりますが、その中身のシステムとか、まだまだ使いやすいものがあつたりとか便利な機能があるかもしれないので、これはこれで、またしっかり研究しなきゃいけないのかなと思っています。

山田伸幸委員 サイドブックスの場合は、そこの関係になってこようかと思うんですけど、その場合はもうプロポーザルにもならないんじゃないんですか。

伊場勇委員長 次の調達方法についても、ちょっと今から話したいなと思っていたんですけど、サイドブックスは、東京インタープレイ株式会社というところがされているんですが、そのペーパーレス会議システムを導入するに当たって、どれを選ぶかというのは、どういったものをこちらが要求するかということが大事で、それに当てはまるのがどれなのかということでございます。基本的には、調達方法がそういったやり方になるということだと思います。サイドブックスとモアノートについては、今ちゃんと話がそれなりにできたと思うので、次のWi-Fiモデルとセルラーモデルの選択の前に、ちょっと調達方法について少し取り上げたいと思います。これについて事務局にお考えがあると聞いていますので、ちょっと説明してもらえますか。

田中議会事務局庶務調査係長 最近導入された近隣の市ということで、宇部市と防府市に問合せをさせていただいたところ、どちらの市も、タブレット端末導入業務とペーパーレス会議システム導入業務の二つの事業を行っておられます。いずれの市も全てプロポーザルで導入されています。本市につきましても、やはり業務の内容が、技術的、専門的な知識が求められますので、所要の予算内で、最適なタブレットシステムを導入して、最少のコストで最大の効果を発揮するためには、より優れた技術力を有する事業者を選定できるプロポーザル方式が最適であると思ってお

ります。

山田伸幸委員 その際には今説明があったんですけど、プロポーザルとなると複数のシステムで競い合うということなんでしょうか。それとも、もう先ほどから話しているように、サイドブックスのほうがより使いやすいという声が多いんですけど、そこにプロポーザル1社だけで、かけていくということなんでしょうか。

田中議会事務局庶務調査係長 こちらのほうから特に、このシステムということでシステムを指定するものではありませんので、仕様書でこういったことをしてほしいというところを示させていただきまして、その中で、公募型プロポーザルを行おうと思っております。

伊場勇委員長 先ほど出た二つの自治体では、どういうふうなやり方をしていたんでしょうか。

田中庶務調査係長 宇部市のほうは仕様書等を詳しく特に見ているわけではないんですけども、防府市にお尋ねしたところ、特にシステムの指定はされておられません。

島津事務局次長 システムは特に指定はしないんですが、皆さんサイドブックスを使ったときに使いやすかった点があると思います。そういうところを仕様書に落としとしていって、プロポーザルにかけるということです。

伊場勇委員長 なので、このような機能がほしいというのを仕様書に入れて、仕様書で公募をかけるということですよ。

島津事務局次長 はい、そのとおりです。

伊場勇委員長 なので、プロポーザル方式になるのかなと思っています。それ

が一番効率的かなというふうに思っているんですね。他市の状況も踏まえて、いろいろ仕様書も公開されている部分があるので、参考にして作っていききたいなど。事務局は、プロポーザルって今までしたことないんですよ。

島津事務局次長 私がいる8年間はやったことがありません。中継システムとかマイクとかいろいろ入れておりますが、全部入札で行っております。

伊場勇委員長 なので事務局としても、仕様書を初めて作るということなので、時間が少し掛かる部分もあるかなと思いますし、新しく導入するものなので、それについては、しっかり議論しなきゃいけないのかなというふうに思います。基本的には調達方法については、今のところプロポーザルが望ましいんじゃないかということでございます。

藤岡修美委員 確認なんですけど、記録だと、宇部市、防府市両方ともタブレットについてはリースですが、本市もリースで進めていくんですか。

田中庶務調査係長 本市についてもリースで考えております。

伊場勇委員長 リースになった場合、入るのに結構時間が掛かったりするので、予算を取って、プロポーザルで取ったとしても、その物が入るのが先になると契約も先になっちゃうので、年度をまたぐと債務負担行為になるのかとか、いろいろあると思うんですけど、その辺は、しっかりスケジュールを組んでやらなきゃいけないのかなというふうに思っています。では、一個戻って、Wi-Fiモデルかセルラーモデルの選択についてなんですけども、さっき環境のお話も出ましたけど、Wi-Fiが今3階にはないんですよ。ただ、執行部のほうで、Wi-Fi環境を委員会室1と2には、今年度中に整備するという事なんです。職員も使うから、職員のパソコンの更新があつて、ノートパソコンに今替えている段階ですから、そのパソコンを例えば3階の第2委員会室に持ってきて、

しっかりいろいろ使えるようにするというようなところはあるんですよ。ただ、議場と議員控室、会派室にはWi-Fiが今のところないので、これはもうフリーWi-Fiじゃなくて、ちゃんとSSIDでちゃんと特定の人しか使えないWi-Fi、普通の市民の方は使えないWi-Fiなんですけど、そういう環境もちょっと併せて整備しなきゃいけないかなと思います。Wi-Fiモデルなのか、セルラーモデルなのかというところですね。セルラーモデルというのは、Wi-Fiじゃないところでも使える、要は携帯と一緒にということで、その分、通信料が掛かります。Wi-Fiモデルだと、基本的にWi-Fiの下で使えますが、Wi-Fiにプロバイダー契約が掛かります。各自宅とかでは、Wi-Fi環境になりますけども、どうですかね。使い勝手がどっちがいいのか、もちろんコストのこともありますし、Wi-Fiだけでいいのか、外に出たときにも少し使えたほうがいいのか、その辺どうですか。

山田伸幸委員 外で使うとき、一般的にセルラーモデルというのは、ちょっと標準の電波より弱いんですよ。例えば、私の携帯の場合だったら、純正の電波が来ますので、かなり強くて、セルラーの人と一緒に持っていても、セルラーの人は電波が立たないけれど、こっちはちゃんとアンテナが3本立つというふうな形で、ちょっと違いがあるんですよ。そこまでのきちんとした電波が来るようなシステムにはならないのじゃないかなと思うんですけどね。この3階自体が、セルラーというか、携帯がちょっと入りにくいところもあるんですよ。Wi-Fiだったら、もうテザリングで十分できますし、現に教育委員会なんかはテザリングでかなり使いこなしています。

伊場勇委員長 なるほど。要は、Wi-Fiモデルにセルラー機能を付けるかどうかという話なんですよ。例えばですけど、2ギガバイトの通信にすると、毎月お金が掛かりますが、外に出たときにテザリングにすると、ちょっと個人差が出るのかなと思ったりします。テザリングは、何か契約しないと使用できないですよ。auは、そういうふうになっている

みたい。契約している人は、テザリングできるけど、そうじゃない人は、そこにちょっとばらつきが出るのかなと。例えば、外に出たとき、議会報告会、意見交換会、懇談会とか、あと視察といった場合に、W i - F i 下じゃないときに活用しようというときに、少し不自由がある場合もあるのかなと思うんです。だから、より多方面で使いやすになると、セルラーモデルを例えば何ギガバイトとか付けとったほうが使いやすいかなと思っています。他市の状況はどうでしたっけ。学校はW i - F i ですよ。L T Eは付いてないですよ。

島津事務局次長 公費で機種を導入しているところの5市は、全てセルラーモデルとなっております。

伊場勇委員長 なのでW i - F i 下ではW i - F i を使って、そうじゃないところは、セルラーで、多分何ギガバイトか制限してるんじゃないかなと思うんですけど、その辺もちょっと調べなきゃいけないですね。事務局が使うタブレットについては、W i - F i だけ。外に持ち出さないというのが、基本的ですもんね。

島津事務局次長 おっしゃるとおりで、事務局用に入れているタブレットは、W i - F i モデルとなっているところもあります。

伊場勇委員長 なるほど。なので、すぐはちょっと使い方とか使い道とか、セルラーモデルでW i - F i 下じゃないときに、タブレットがもし使えるのであれば、どういった効果があるとか、そっちをまた話しながら進めたほうがいいかな。（「もうちょっと先ね」と呼ぶ者あり）そうですね、分かりました。次に導入スケジュールについてなんですけど、先ほどちょっと言いましたけども、ものが今入りづらいという状況で、防府市も1年待ちでやっと入ったというのを聞いてますし、防府市は執行部が予算を取って発注かけたんだけど、1年間待ったという状況なんですよ。ただ、それをずっと言っても仕方がないので、前に進むために

は、例えばの話でいいですけど、導入スケジュールを事務局として、どういうふうに考えているか。

島津事務局次長 まだ正式に皆さんの答えが固まっているわけではありませんが、例えばiPadの12.9インチを導入するとして、議員22台、それから事務局5台としましょうか、それと、セルラーモデル等に限定して、まず見積りを取ってどれぐらいになるかというところから始まると思います。今から見積りを取って金額を見てみないといけませんけど、仮定の話で、最短で、例えば12月定例会の補正に出すとか、そういうところでしょうか。

伊場勇委員長 これは事務局から、予算を要求することになるんですよね。

島津事務局次長 はい、もちろんそうなります。

伊場勇委員長 なので、それまでにはやっぱり特別委員会として、報告書も上げなきゃいけない、提案書も提出しなきゃいけないし、もちろんそれも全議員了承の下、事務局から予算を要求するという形を取らなきゃいけないので、それが12月となると、それでもタイトな時間かなというふうにはちょっと感じます。例えばの話でございますので、決まらなかったらもっと遅くなるかもしれないということでございます。早くして欲しいけど、スケジュールについて何か御意見ありますか。僕も一刻も早く使いたいと思うんですけども。

山田伸幸委員 その場合、恐らくハードとセットになると思うんですよね。どのシステムを入れるにしても、ハードとそれがセットで納品されるということになるかと思うんですけど、それならそれで、きちんと決定を急いでいかないと、もう来年度予算になってしまいますよね。だから、そこをきちんとみんなで意思統一を図って、提案できるようなものにしていかないといけないと思います。

伊場勇委員長 そのようにしていきましょう。それでは、1 のことについては、このぐらいでいいかなと思っています。そのほかに意見はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、ちょっと休憩を入れます。暫時休憩します。

午後 1 時 4 0 分 休憩

午後 1 時 5 0 分 再開

伊場勇委員長 それでは、休憩を解きまして委員会を再開いたします。次に 2、特別委員会からの提案書（報告書）についてということでございます。この委員会ですっかりと結論が固まったものは、もう提案書という形になるかもしれませんが、途中経過で、報告書という形で、全議員にもしっかり示す必要があるかなと思っています。私が、取りあえずパワーポイントで作った案を今日ちょっと叩いていきたいと思っています。この報告書なんですけども、例えば、9月の定例会の初日に、議長に提出して、全議員に対して報告したらどうかなと思うんですけど、事務局そういった形を取っても大丈夫ですか。

島津事務局次長 特別委員会からの中間報告ということで、例えば、9月定例会の初日に報告するという事は可能です。特別委員会におきましては、中間報告をされることはよくあります。

伊場勇委員長 分かりました。ということなので、9月の定例会初日に、できる限りしっかり煮詰めたものを出せたらなと思います。今回は第1回目、私が今まで議論したものを少しまとめて作らせていただきましたので、これについて、今日1ページずつ追って、内容を確認していきたいというふうに思っております。その中で、意見を頂きたいなと思ってお

りますので、お願いします。それでは、1 ページ目のタブレット端末導入に関する提案書と書いていますが、これは報告書とか途中経過とか、そういった形になるのかなと思ひまして、ここはちょっと文言変えるようにしますね。次のページなのですが、これは検討経緯ですね。委員会がこういう目的で設置されて、執行部とも初め協議しましたし、その後、調査研究を行っていて、ただ、視察を二度ほど計画したけど中止になりまして、その後、タブレットを使用するのペーパーレス会議システムのデモンストレーションを2 回行ったと。今のところ、この程度かなと思ひますので、今から調査等、研究等、視察等が入れば、これに追加していいかなと思ひています。これについては、いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）その次は、県内他市の状況ですね。これもちょっと入れていいかなと思ひます。周防大島町ももう導入しているようなので、それもちょっと入れたらどうかと、それは、また更新しますんで確認したいと思ひます。その次は、まず、先ほどお話ししたWi-Fiモデルでいいのか、セルラーモデルとして、LTEを追加するのかということですね。これについては、今の段階、私はセルラーモデルのほうが、携帯電話がつながる環境であれば通信が可能ですし、少し経費が掛かるというコスト面の問題がありますけども、活用の幅が大きいということで、導入効果が大きいのかなと思ひています。これは、先ほど話したとおり、使い勝手等々、効果等々を少し議論して進めていきたいと思ひます。お願いします。では、次に導入によるメリット、効果は、3 項目に分けて記入しました。ここが結構重要になるかなと思ひるんですけども、まずペーパーレスによる用紙代と消耗品等の節減ができると。例えば、紙ベースでいくと議案書、審査に必要な関係資料、開催通知、予算書、決算書、計画書と、消耗品として、インク、ステープル代等ですね。これ以外、何か例えば、紙ベースでほかに削減できるものがあるかなとか思ったりするんですけど、大丈夫ですかね。消耗品もどういうものが考えられるかなと思ひます。ステープルというのは、とめるホッチキスとかですね。あと何かこう挟むクリップとかですかね。ほかに何か考えられるものがありますか。特になければ、あとは人件費なんですけども。

山田伸幸委員 議会前になると、総務課のところに、10人ぐらいずっと並んで議案書を作るんですね。みんなが紙をずーっと取って行って、それを製本して、あれが議員だけじゃなくて執行部とか合わせて、全部で50部以上か、もっと作るのかな。執行部にも回されたりするんで、相当数の紙が、そこで使われているし、時間も相当数使われている。機械でシャッシャできるのかなと思ったりするんですけど、そういう導入はされてないんで、かなりの手仕事になっているけど、それがなくなるといえることですね。

伊場勇委員長 今書いているのは、印刷のときに掛かる手間ですね。議会で郵送したりといったことは特にはないですか。配達とかはどうですか。

島津事務局次長 昔はあったようですが、今は皆さんの御協力も頂いておりますので、急遽の場合はメール等のやり取りということもしておりますので、配達とか郵送等はしておりません。

伊場勇委員長 はい、分かりました。これ、ないなら消していいかなと思います。差し替えの手間とか、議員の一斉の連絡時間とか、これ電話でするところとかもあるけど、その辺はどうですか。

島津事務局次長 差し替えの手間につきましては、稀にありますけども、正誤表を配布したりとかで、多少時間は使っております。それから、議員一斉の連絡等は、うちの場合はメールとタイムツリーで行っておりますので、特に変わらないかなと思います。

伊場勇委員長 はい、分かりました。議会事務局としては、そうかもしれませんが、議案を作っている総務課の人件費については、これも少し調査が要るし、実際幾ら程度なのかというのも、後で話しますが、経費のところでもしっかり出してみるべきかなと思います。次の通信運搬料、

これはゼロですかね。郵送していないですよ。配達しない、封筒も使わない、メールだけ。急ぎの場合は、たまに電話でスケジュール等々やっている場合もありますけども、それは仕方ない場合がありますからね。なるほど、通信料等は特にそんなにないかな。（「発生しない」と呼ぶ者あり）分かりました。経費削減効果については、この程度にしまして更新します。次に、議会運営上の効果と議員活動上の効果と市民にとっての効果の三つを挙げているんですけども、まず、議会運営上の効果として、利便性を活かした議会機能の強化による議会改革の推進と書かせてもらいました。以下、読みましょう。市民への迅速・的確な情報提供ということで、議会基本条例第2条第5号、議会運営は、市民の関心が高まるよう、分かりやすい視点、方法等で行うこととすることがあります。そして、情報取得の迅速化、過去の資料の検索機能の向上、情報共有・携帯性の向上、これは、例規集とか計画書、議案書、予算決算書、通知文等々の情報がすぐに入ると、その他の情報も入ると思います。また、ICT化によって、一般質問等でのデジタル資料、モニターでしっかり配布できたりとか、カラーとか物によっては、3Dデータでも資料として出せる可能性もあるかなと思います。動画はちょっとそぐわないかなと思います。運用は要検討と書いております。また、スケジュール管理の一元化、今タイムツリーを使っていますけども、あわせて、オプションでいいものがあれば、それで一元管理できたらいいのかなと思っていますし、情報伝達の迅速化、ちょっとかぶるところがありますけども、要は、委員会内で、その場ですぐ資料等々を共有できるところ。あと文章訂正時の差し替え、今は議会運営の中で、下から紙を持ってきて訂正がありますって配ったりするじゃないですか、それがデータの変更だけで済む、同期をかければオーケーということもあるので、そういう形なのかなと思いますけど、それに当たって、書き方とか文言も要らないんじゃないとかが少しあるかもしれませんけど、議会運営について、どこか引っかかるところとか追加することかありますか。どうでしょうか。

藤岡修美委員 一番最初の「利便性を活かした議会機能の強化による議会改革の推進」が、何か漠然としていて、具体的に見えにくいと思います。

伊場勇委員長 なるほど。ここを具体的にですね。

山田伸幸委員 正直に言って、これは非常に題目としては、わっと思うけれど、中身を考えたときに、うーんとなるものです。一般的に、こういうデジタル化というのは、市民にも同じ情報がいち早く提供できると、そういう市民の権利に対して、的確な情報が同じものが出せるということぐらいで、それは、大切な議会改革の一環として、市民の知る権利への協力ということになろうかと思います。

伊場勇委員長 知る権利ですね。市民にとって、この議会改革にタブレットを導入することって推進するのかどうかというところなんですけど。

山田伸幸委員 例えば、発言がそれによってできるのであれば、言葉にしていかなか言いにくい人がこれだったら発言できる、そういう人が出てくるのではないかなというふうに思ったりします。特に障害者の方なんかだったら、そういう可能性が出てきます。実際に他市なんかでは、そういう方も議員でおられると聞いておりますので、そういう障害を持つ人も議員として参加できる、そういうメリットがありますね。私たちのまちでは、残念ながらそういう事例はありませんけれども。それとか、先ほどもちらっと出たんですけれど、離れたところで、委員会がZoomとかを活用すれば、各家庭と情報交換が迅速にできると。最たる例は災害時ですね。

伊場勇委員長 それは入れたいですね。

山田伸幸委員 災害対策委員会とかを立ち上げた際に、わざわざここに集まらなくても、現場と委員会をつないで、それぞれ自宅をつないでできる可

能性も広がってきますね。その広がりの中で、今そうになっているわけではありません。

伊場勇委員長 議員活動上の効果で、ちょっと入れているところがあるんですけど、確かに議会運営においても、災害時のとき、例えば、タブレットがあって、Zoom機能があったりすると、協議会とかを開催することはできますよね。今の状況でいえば、正式な委員会はなかなか難しいかもしれません。分かりました。議会運営上の効果、取りあえず、この程度で大丈夫ですか。

山田伸幸委員 この中にスケジュール管理の一元化というのがあって、今はタイムツリーというのが使われています。以前はサイボウズというのを使っていて、非常になれ親しんで使いやすかったと思うんですけど、これがもう無料では使えないということで、タイムツリーに変わりました。先ほどのデータを見てみると、サイボウズを導入する方向で検討を進めているところもあって、やはり、こういうのが入ることによって迅速な、そして、データの大きいものも使えていくというところでのメリットが、かなりあるんじゃないかなと思います。

伊場勇委員長 スケジュールのところを開くと、その日に使う資料とか見れてということですよ。ホームページは今そういうふうになっているじゃないですか。ホームページは今スケジュールの委員会を押すと、委員会で使う資料とかが見れるようにはなっていますよね。それがまた違うその会議システムで何かできたりというのも、もしできるのであれば、いかもしれないですし、そういった一元管理がしやすいのかもしれないですし、それがまた導入するものにあるのかどうかというのもありますけど。導入するシステムによって、また変わってくるのかなと思いますね。じゃ、次のページ行きます。議員活動上の効果についてですね。先ほど、議員活動上の効果もさっきの議会運営上の効果とちょっとかぶるところがあるんですけど、まず初めは、さっきとほとんど同じですね。

携帯性の向上がちょっと付いてくるくらいだけで。あと政務活動時の精度向上、内容充実、記録内容の向上ということで、もちろん皆さん携帯を使って写真を撮ったりされていると思うんですけども、そうじゃなくて、より精度の高い画像とか録音とかを、市のデータとして、管理がしやすく、閲覧して比較とか、現場での資料説明、市民の方に対して、議会活動をしやすいんじゃないかと、画面も大きいですし、説明しやすいという効果があるのかなと思います。先ほど山田委員からありました、次は非常時における具体的な災害現場の状況等々ですね、それも報告しやすく、システムがあれば、そこに乗せてやれば、電話回線がもしダウンした場合、ネット環境があるところでアップできるという利点もあるかなと。次にはICT化によって先ほどの一般質問等での資料の使用が可能ということで、都議会とかなんですけども、建物とかの立体的な3Dデータの資料とかを提示されるわけですよ。なので、そのタブレット上で、回転させたり、タップして、それが裏から見れたりとか、そのペーパーじゃ見えないようなところも、今後できてくるんだろうなというふうに思っています。

山田伸幸委員　そこは、条例改正等が必要になってくるんですよ。今、執行部の持っている資料については、情報公開請求による提供か、若しくは議長を通じての資料請求ということをしざるを得ないので、その辺では、条例の改正がどうしても必要になってくる部分ではないかなと思います。

伊場勇委員長　条例の改正はちょっと置いといて、今後そういった資料も使えるとより審査がしやすくなるよねと、より深い審議ができるよねというところに備えるということもあるのかなと思います。見やすくてですね、白黒で小さい図面とか出てくるわけじゃないですか。たとえば、A3で出してもらったとしてもより拡大できたりとか、何かそういうのは、やっぱり審議がより深まるんじゃないかなというふうに思いますね。

山田伸幸委員　だから、事前に市のほうから情報を提供してもらって議会資料

として保存しておく、それは使えます。

伊場勇委員長　そうですね。これ資料の使い方としては、やっぱりさっきも少し話しましたが、過去の検索ができるという。今、委員会資料と本会議の資料とかばらばらですし、検索がなかなか難しいんです。前の委員会のときも話しましたが、本会議の議事録のところに、キーワードを打って、引っかかったところの日時をメモって、また、委員会のところに戻って、それでまた見直して資料を探すとか、そういった状況になるので、そういった手間がまず省けます。例えば、市民の人から、これどうなのって言われたときにも、すぐ提示しやすくなるのかなというふうに思います。最後には、視認性の向上、膨大な資料の持ち運びがタブレット一つでできて、カラーで見やすく拡大できますよということかなと思いますね。そのほか、何かここで引っかかるところありますか。

藤岡修美委員　一般質問での資料のデジタル化に引っかかるのが傍聴の方、そういう方は、ペーパーになるのかなという気がするんです。

伊場勇委員長　そうですね。仕方ないですかね。ただ、クラウドに入れるものを何でもかんでも見れるような感じのものを貸し出しますか。

山田伸幸委員　一般質問のときの資料も一応傍聴人には公開されていて、一般質問のページに入ったら、何々議員の資料というものが出てきますから、そういった意味では、ただ、それは後日になるのかな、当日は無理だったような気がするんですけど、その辺ではできているというふうに思います。

島津事務局次長　資料は、当日の会議の開始時間にホームページに上げております。

山田伸幸委員　問題は、委員会室にしても本会議場にしても、入るときは何も

持ってはいけないということになっていきますので、だから、その辺では条例の改定が求められているということですね。

島津事務局次長 撮影等は許可されておられませんけども、パソコン等の持込みは、傍聴規則では特に制限はなかったかと思います。

伊場勇委員長 携帯を持って入っている人もいますよね。

島津事務局次長 もちろん音が出ないようにはさせていただきますけども。それから1点、今は、会議の資料は傍聴人にお渡ししているので、例えば、議員がタブレット化された場合でも、傍聴人の資料は紙ベースで必要ではないかなというふうには思っております。

伊場勇委員長 そうですよ。紙ベースで上げないのであれば、例えば、タブレットを貸し出すとかができます。余っているものがあれば、それを同期させて、お貸しすることも可能かもしれませんが、台数にも限りがありますし、10人来られて10台あればいいですけど、そうじゃなかったらお貸しできません。これ仕方ない部分なのかな。本会議場は、基本的にはWi-Fiにしますから、タブレットじゃないと入れませんので、自分でホームページ開いていただいて見ることになりますよね。今のところ紙ベースなのかな。あと例えばですけど、モニターがもうちょっと大きかったりすると、そこに資料をドンと載せれたらね。タブレットを入れることによって、カラーとかが浸透していけば、そういったところも目が向くかもしれない。

山田伸幸委員 一般質問で、そういうビジュアルを活用した質問に切り替えていくということは、時代に即した方向かなと思います。

白井健一郎委員 議員活動上の効果ということで、我々、デジタル化推進特別委員会で、デジタル化を推進するわけじゃないですか。これはもう国の

動きであるし、デジタル庁もできましたね。デジタル田園都市構想みたいなことも国は言っています。私、友達にITで働いている人がいるんですけど、AIの人工知能が、2028年から2030年に、人間の知能を上回るっていうんですよ。そのときにもう劇的に社会が変わるだろうと彼は言うんですよ。そういう感じで、とにかく今もうデジタル化が、今後進みそうだから、何とかこの議員活動上の効果として挙げなくてもデジタル化に取り組んでいけば、どんどん便利になるんじゃないか。期待値は高いですよ。

伊場勇委員長 将来に向けての準備といたしますか。なるほどですね。ありがとうございます。そのほかいいたですか。（「はい」と呼ぶ者あり）じゃ、次行きます。市民にとっての効果ですね。これなかなか難しかったんですけど、ちょっと意味の分からんことも書いていますけど。

山田伸幸委員 さっきから、これに注目して見ていたんですけども、もうこのぐらいで、ほかにはないように感じました。基本的に、これ全部公開性のことが、ずっともうこれしかないかなと思います。

伊場勇委員長 今公開していますからね。山陽小野田市は、もう全部、所得も公開しています。ただ、市民に対しては、もちろんリアルでやっているときとかも説明がしやすくなるというのは、もちろんあるかなと思います。御要望が来たときに、内容を執行部にも伝えやすい、市民の人がより正確で見やすくて、精度の高い情報も、市民から議員のほうに来る可能性もあるのかなと思いますね。

恒松恵子副委員長 先ほどのページでもありましたけれど、例えば、ちょっと障害をお持ちの方、耳が遠い方とのコミュニケーションも取りやすくなるかなと思います。意見交換の手段が広がります。

伊場勇委員長 そうですね。意見交換の手段が広がりますね。これはもう何度

もちよつと見直していただいて、また新しい項目等、新しい考え方や見方や効果があれば、またこれを更新していきたいと思ひます。次に移つていいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）じゃあ次は、タブレット導入によるコストと削減効果の比較ということで、今例えはの話で、セルラータイプ27台というふうに書いておりますが、議員が22台、事務局が5台です。5台にしたのは、まだ、例えはの話で、委員会室が二つありますから、事務局が2人入りますんで、2台ずつかなと。あと予備1台かなというふうにちよつと思ひて、そういうふうにしました。今のところのイニシャルコストとランニングコストなんですけども、少し見積りを取られているところがあるというふうに聞いてますんで、今のところ大体の概算でいいんですけども、事務局から教えてもらってもいいですか。

田中議会事務局庶務調査係長 まず、イニシャルコストなんですけども、Wi-Fiの環境整備、それとインターネットの光回線の工事を合わせて、おおよそ190万円。それと、会議システムにつきましては、例えは、サイドブックで、初期設定が8万円、それと、講習会は、利用者講習会と管理者講習会がそれぞれ8万円になります。それから、ランニングコストなんですけども、端末のリース料とプロバイダー料合わせて、月額が、おおよそ20万円程度。それと、会議システム、サイドブックですと、基本料と、あとクライアントのライセンス料と、10ギガ容量追加をしまして月額8万2,500円。それと、インターネットの光回線は月額が大体6,000円ぐらいという見積りを頂いております。以上です。

島津事務局次長 先ほどの月額20万円のリースの分については、以前一応10.5インチのセルラータイプ30台で取ったものですので、12.9インチとか、またiPadとかということになると、金額は違ってくると思ひます。

伊場勇委員長 はい、分かりました。まず、W i - F i 環境の整備の費用として、光回線の工事、W i - F i そもそもの設置ですよ。光回線の工事は幾らで、その別々で概算出ていますか。

田中議会事務局庶務調査係長 W i - F i の環境整備が183万7,000円、それと、光回線の工事費が1万8,800円プラス消費税となります。

伊場勇委員長 光回線の工事は、それぐらい安いということなんですね。ただ W i - F i 環境なので、本会議場と控室と会議室二つと応接室、要は会派室ということですね。事務局はどうなんですか。

田中議会事務局庶務調査係長 事務局については、職員用のW i - F i を情報管理課が今年度中に整備される予定になっております。

伊場勇委員長 そうですね。ということは、事務局にはW i - F i があるけど、それを議員は使えないんですよ、今のところ。職員用ですもんね。そこはちょっと置いときましょう。ということで、インシヤルコストで大体、講習会をどういうふうにするかというのは、ちょっと考えどころありますけど、約210万円、月のコストが大体28万円とか9万円とかですね。こういうのは、ちょっと正確にこの程度だろうって出さないと、結局予算も取れなくなってくると思うので。台数が多ければ多いほど、それなりに、普通に割引とかなと思うので、その辺は掛かるもんだなというふうに思います。導入費用は必ず掛かってきますからね。それを受けて、この金額はちょっとまた精査してやるべきかなと思いますし、何がどのように要るかというのは、また追っていきたいと思います。これ必ず必要になるので、インシヤルコスト、ランニングコストは考えていきたいと思います。次のページの削減効果についても、導入する理由として、もちろん効果の次に削減額というのもちょっと出していくべきかなというふうに思っています。もちろん消耗品費で、さっきちょっと話しましたが、ただ、人件費とか通信費、印刷製本費、印刷製本費と

なると、恐らく予算書とか総務課になりますよね。総務課のものが、ペーパーレスによってなくなるので、それももちろん同じ市民の税金ですから、削減される額は変わらないですもんね。例で書いているんですけども、他市の事例と書いています。これは矢板市で、人口3万人ぐらいの都市です。本市の半分ぐらいの都市で、ざっと100万円ぐらい、人件費が43万円とか印刷製本費48万9,000円ということで、タブレット導入することによって、削減できる試算を出していました。これもちょっと本市どうなんだろうと思って、これなかなか出し方も難しいかもしれません。導入の経費が高いです。まずイニシャルコストが高いんですけど、それによってさっき話した効果と削減できるもの、紙代と人件費ですよね。実際、人がどんどん増えていくことはないと思いますよ。それも時代に合わせて、やっていくべきかなと思うので、次のページなんですけども、コストと削減額と差額、この差額が、効果にしっかり見合うものなのかというところが、やっぱり数字で見ると大事なところなのかなと思います。

山田伸幸委員 数字では非常に出しにくい問題があります。だから、議会ですから、今後の議会の運営上、活発な議会にそれが貢献しないと意味がありません。表面的な何円削減できましたとかいうんじゃなくて、やはり、それを駆使して議員が頑張っていないと、この効果というのは、全然変わってくるものだとことを認識しておく必要があるんじゃないかなと思います。

伊場勇委員長 おっしゃるとおりだと思います。使うことが普通になって、より使うことで市民の方によりよい情報が届くとか、そういうところ。あとは数値化できない効果というのも、ミスプリントってどれだけミスがあったのみたいなところは、なかなか差し替えが何回あったのかとか、なかなか数値だと難しいかなと思ったり、そもそも紙を使わないのでごみの削減になりますよね。でも、これを数値化するのはなかなか難しいかなと思っています。

山田伸幸委員 議会事務局だけの紙ではなくて、総務課が議会のために作成する紙、そこも含めていかないと、しかもこのコピー代とかも掛かっていますので、その辺を見積もるのは、なかなか難しいかなというふうに思います。

伊場勇委員長 でも、この際、できるだけやっぱり具体的に出すべきかなというふうに思います。

山田伸幸委員 現在、事務局でのそういう消耗品というのは、年間どの程度あるのでしょうか。

島津事務局次長 予算上消耗品は40万円近いぐらいだったと思います。そのうち紙代がどれぐらい占めているかというのは、調べてみないと分からないですけど、10何万円ぐらいではないかと思います。

山田伸幸委員 よく委員会中に、この資料を出してくれって言うことがありますよね。そういったときでも、もうタブレットが導入されれば、今から配信しますと、ぽんと出すようなことができてるなら、それはそれで、かなりの削減になりますよね。

伊場勇委員長 ごみも出ませんしね。

山田伸幸委員 産業建設常任委員会では、水道局がもうパソコンを持ち込んでいて、そのデータは、なかなか私たちには見れません。ですが、これを今から皆さんにお見せしますので配信しますというふうになるなら、これは迅速な資料の提供が行われるということがあります。

白井健一郎委員 もともと紙を削減するというのは、お金の問題というよりも、環境だからなんですよね。

伊場勇委員長 環境って、効果の中にそういえば入れてなかったかな。それは議会改革になるんですか。どうなんですか。（「SDGs」と呼ぶ者あり）なるほど、SDGs。これは議会運営上の効果ですか。これは議会運営、市民に対してじゃないですもんね。コストのところはできるだけ、具体的に根拠を出していかなきゃいけないけど、せっかくペーパーレスに取り組んでいるんですから、どれぐらいの削減が見込めるのかというのも、ちゃんと委員会としては、出すべきかなと思います。

藤岡修美委員 他市の例で具体的に人件費別で、議案の印刷費用を出して、年間二百数十万円、4年ぐらいでペイするんじゃないかという、他市の何か報告書もあるようです。

伊場勇委員長 そういうのをちょっと参考にして、そうですね。

恒松恵子副委員長 イニシャルコストの中で、例えば更新が必要なもので、何年かして費用が掛かるとか、その辺りも仕様書とか見積りの際に明確にされとったほうが、よろしいかと思います。

山田伸幸委員 タブレットも、コンピューターの一部ですから、当然システムの更新というのが出てくるわけですから、それが、定期的にネットにつながり度で自動更新となっていればいいんですけど、全部有料となると話はちょっと変わってきますよね。その辺も確認しておく必要があるかと思います。

伊場勇委員長 はい、重要なことだと思います。取りあえず今のところ、そのぐらいで大丈夫ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）最後のページになりますが、特別委員会としての結論も、報告するときは要らないと思うんですが、結果、例えば、議会にタブレット導入すべきという理由も、最終的にまとめた総括的な総論も述べなきゃいけないのかなと思います。

執行部にもタブレット導入が望ましいといえますか、執行部にもペーパーレス化が望ましいといったところも、特別委員会として、言うべきかなと少し思っております。その辺は、またここはもう今意見を言ってもばらばらになっちゃうと思いますし、これはそういうものを作ったらどうかという提案でございますので、この中身は、また皆さんで協議しましょう。ということで、この報告書はいろいろ御意見いただいたので、また、作り変えて、皆様にメールで送ります。そのときは、しっかり目を通して、次の委員会に備えていただけたらと思いますのでお願いします。じゃあ、次に最後ですが、これも次への宿題かなと思っていて、ルールですね。ICT機器使用のルール、タブレットのルール、ICT機器と書いたのが、例えば、パソコンを持ち込んだときとか、携帯電話は電話なんですけど、その辺も少し緩和したらどうかと思うところも少しあります。もちろん音を鳴らしちゃいけないし、審議の邪魔になっちゃいけないので、審議とは別の使い方したら、これは絶対駄目なことなので、そういったところのルールも、デジタル化推進特別委員会で作るべきかなというふうに思っています。まず、初めにセキュリティーと書いたところで、端末においては、例えばタブレットについては、機器自体のIDパスワードを付けること、そして、クラウドに資料があれば、それに行くために、もう1回パスワードを入れると、2要素を入れると、よりセキュリティーが高くなるのかなと思いますので、そういったやり方もどうかというふうに思いましたし、先ほど申しました議場、委員会の使用時のルール、持ち出し時のルール、失くしたときとか、個人情報が入っていると大変なことになりますけど、そのような中身はないと思います。ただ、こういった使い方をするべきだというのもルールが要ると思うんですよ。これは、他市の事例を参考にすべきかなと思いますので、これまた資料で、皆さんでどこかの市の分を。一回たたき台を作ったほうがいいですか、どうですか。それをまた1個1個確認していくという作業になると思うんですけど。

山田伸幸委員 それと、やはり事前に、よそでの使用実例を是非ちょっと一度

見させてくださいね。議会でどういうふうに使われているのかというのは見たいですね。宇部市でもいいし。

伊場勇委員長 視察の話になりますけども、お隣ですけど。

田中議会事務局庶務調査係長 デジタルの件で視察の御相談させていただいたんですけども、今視察は受け入れていないということでお断りされました。

伊場勇委員長 これ何回もお願いしていて、でも何回もお願いしましょう。今まだ駄目ですかとか、もう大丈夫ですかとか、大丈夫になったら連絡くださいと言うと、ちょっとおこがましいので。ちょっと見に行かないことにはやっぱり伝わらないし、こっちも何か新しい疑問が出ないというのもありますから。

山田伸幸委員 ちょっと事務局に確認していただきたいんですが、長門市の場合は、ハードウェアについては本人の所有しているものということだったんですけど、これはずっと変わらないんでしょうかね。

島津事務局次長 恐らく変わってないと思います。

伊場勇委員長 ということで、今日いろいろ詳しいことまでいろいろ話もできましたし、あとルールについては、また次に効果と並行して話したいので、その点についても、ちょっと意識を持っていただきたいなと思います。そのほか何かありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）新しいことがいっぱいあったので、頭がパンパンになってきたかもしれません。また次回に向けて、情報を流してメールでもお送りしますので、しっかりまた準備していただきたいなと思います。以上で、本日のデジタル化推進特別委員会を終わります。お疲れ様でした。

午後 2 時 3 8 分 散会

令和 4 年（2022 年）6 月 2 4 日

デジタル化推進特別委員長 伊 場 勇